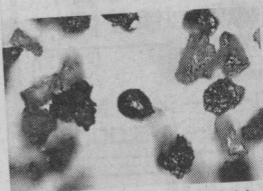


機器付着「月の砂」 静電気を使い除去

早大教授ら開発

空気の無い月面で、太陽電池パネルなどに付着した微細な「月の砂」を静電気で除去する技術を、早稲田大基幹理工学部の川本広行教授（精密工学）らと米航空宇宙局（NASA）が共同開発した。砂は機器の故障や、吸い込むと宇宙飛行士の健康に悪影響が懸念される厄介者。技術は将来の月面開発に役立つそうだ。月面は真空状態で水分が無いため、地球上より砂が



「月の砂」の顕微鏡写真。1粒の大きさは45～90ミクロンという
川本広行教授提供

機械に付着しやすい。川本教授らは、電極をしま状に組み込んだガラス板上で静電気を起こし、プラスとマイナスを短時間で切り替えることで、砂を移動させることで、砂を移動させる仕組みを考案した。アポロ11号が月から持ち帰った砂を使って実験した。月面基地で、飛行士が宇宙服を脱いだ際、付着した砂を吸い込むと健康に悪影響があることも懸念される。川本教授は「宇宙服からの砂除去についてもNASAと共同研究を進めた」と話している。【江口一】

2009. 2. 22 (日) 毎日新聞 19面

6:00
7:00
11:00
0:00
2:00
NH

季節
ス